

# 2018年度(平成30年度) 方針

2018(平成30)年4月  
公益財団法人 全日本ボウリング協会  
会長 北川 薫

2017年、世界選手権大会において日本勢26年ぶりの金メダルを獲得しました。常に協会運営の中心にあった「スポーツボウリングの普及強化」は、地域における地道な発掘、育成と、昨今の強化策の抜本的改革を経て花を咲かせました。

「するスポーツ」としてボウリングに取り組むJBCの仲間には、高い競技力を身につけられる環境をJBCが提供できていることが示されました。今後は「見るスポーツ」、「支えるスポーツ」としての側面を伸ばし、バランスのとれた盤石な競技発展を目指していきます。

あらゆる人々がボウリングと出会い、より深くボウリングを楽しんでもらう機会を創出すること、そして対象に合った適切なサポート体制を設けることで、JBCの会員増強にもつなげてゆく所存です。またボウリング場の減少傾向、オリンピック種目採用といった課題の解決にも引き続き取り組んでまいります。

2018年度は、以下の基本方針により事業を進めます。

## 1. アスリートボウラーを頂点としたスポーツボウリングの普及強化

- (1) 全日本ナショナルチーム、全日本ユースナショナルチームの国際的競技力の向上と国際大会における成績目標必達
  - ・JOC選手強化事業を活用した強化合宿等の実施
  - ・合宿内におけるアスリート倫理遵守の教育  
(アンチドーピング、スポーツインテグリティ等)
  - ・第18回アジア競技大会(ジャカルタ・パレンバン)
  - ・世界選手権大会2018男子大会                      ・第25回アジア選手権大会
  - ・第15回世界ユース選手権大会2018                      ・第19回アジアスクール選手権大会
- (2) 次世代トップアスリートとなり得る選手の発掘育成
  - ・地域における有望選手発掘事業(ジュニアジャパン選考会)
  - ・ジュニアジャパン選抜選手強化合宿による育成促進
- (3) ボウリング指導者資格制度の全国的な浸透を図る
  - ・日スポ協(旧・日体協)公認ボウリング指導員・コーチ資格
  - ・JBC・USBCコーチ制度における指導メソッドの普及
  - ・有資格者の指導力向上を目的とした研修事業の実施(全日本強化コーチ研修会等)
  - ・JBCアカデミックスタッフによる技術解析と強化策開発

## 2. 多様性を受け入れ、あらゆる人々にボウリングとの接点を提供する

- (1) 幼児・児童を対象としたボウリングとの出会いの創出
  - ・全日本小学生競技大会・都道府県予選会兼指導会の内容充実
  - ・国内ボウリング団体との連携によるボウリング体験会等の積極的な開催
- (2) 高校総体(インターハイ)正式種目採用を柱としたジュニア層の競技環境充実
  - ・都道府県高体連への加盟推進支援
  - ・ジュニア対象大会の活性化(協会主催大会、高体連関係大会)

- (3) 大学におけるボウリングの多角的展開
  - ・公益社団法人全国大学体育連合とのタイアップによる大学授業採用推進活動
  - ・ジュニア選手の進学促進による全日本学生連合の加盟校・選手増強と競技力向上
  - ・実業団連合との交流による競技活発化と卒業後の競技環境獲得支援
- (4) 成人スポーツとしてのボウリング普及促進
  - ・各都道府県連盟、支部クラブにおける積極的な個人会員増強活動を推奨
  - ・実業団参入企業の増加および会員増強
- (5) シニアボウリングアスリート像の創出
  - ・シニア層におけるボウリングイメージの刷新（余暇活動からアスリートスポーツへ）
  - ・第15回アジアシニア選手権の沖縄開催による認知向上
- (6) パラスポーツとしてのボウリング普及促進
  - ・視覚障害者ボウリング競技の認知向上支援
  - ・障害者対象のボウリング大会開催支援
- (7) 多様性の受け入れ
  - ・愛好者の開拓、受容によるボウリングファン層の拡大
  - ・あらゆる人を対象としたスポーツボウリングとの出会いの創出（ボウリング教室キャラバン隊）
  - ・競技方法、および関連する事項の検討（ルール改訂を含む）

### 3. 会員増加とボウリング界活性化につながる対外施策の実施

- (1) 全国の公認競技場と連携強化
  - ・公認競技場－JBC間のダイレクトな連携協力体制を構築
  - ・一般愛好者から競技者へのステップアップの促進
  - ・公認競技場の営業メリットとなる企画の実施
  - ・ボウリング場のイメージ向上（明るくスポーティな雰囲気センターに）
- (2) スポーツボウリングのイメージ向上につながる情報発信
  - ・既存番組、媒体、作品等とのタイアップ推進
  - ・協会媒体（JBCニュース、Web、SNS）を活用した広報活動の強化
  - ・国際大会等における映像・写真の独自取得とメディア提供を積極的に行う
- (3) ボウリング業界内外との活発な意見交流と事業連携
  - ・ボウリング界活性化のため業界各団体参加の組織を構築（BCJ再編）
  - ・業界各団体・企業が一体となった大会の実施（ROUND1 グランドチャンピオンシップ、グローバルトーナメント等）
  - ・ボウリング団体間の情報交換積極化により新規連携事業のアイデア創出を図る

この方針の実施にあたり、内閣府、総務省、文部科学省、スポーツ庁をはじめとする各省庁、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、独立行政法人日本スポーツ振興センター、一般財団法人地域活性化センター、ボウリング業界、特別協力各社との連携を密にし、役員はもとより会員の皆さんと共に方針の達成に邁進します。